

平成 23 年度 活動報告書

准教授 前林明次

1. 学内における活動

○科研費による個人研究「インタラクティブな立体音響システムの構築と表現への応用」

5M—10M 四方の空間におけるプレイヤーの位置、向いている方向を画像認識によって捉え、空間内の任意の位置に配置された架空の音源をリアルタイムにレンダリングし、プレイヤーのヘッドフォンに返すというインタラクティブな音響システムを構築する。さらにそのシステムを作品制作に応用し、新たな表現を創出することを目的としている。

○後期モチーフワークにおける新たな教育手法の模索

美術家の笹口数氏と共同で、後期モチーフワークのプランニングと実施をおこなった。実施形態としてはワークショップに近い形になった。身体的所作とそれにまつわる様々な表象をつなぐモチーフとして「投げる」という言葉を設定した上で、そこから連想されるイメージやテキストを、大まかに座標設定された空間において展開した。個々人で行われる作業は、つねに全体に結び付けられるということ意識することで、また、言わば「思考が空間された空間」を実際に歩くことで、新たな意味の結びつきの発見、「動的」な思考のあり方を実際に体験する場を形成することができた。

○リンツ美術工芸大学訪問とアルス・エレクトロニカ、ヴェネツィア・ビエンナーレの視察

H23 年 9 月 1 日より、9 月 8 日までヨーロッパへ出張に出かけた。9 月 2 日にリンツを訪れ、IAMAS との交換留学制度の延長を確認する親書を副学長マンフレッド氏に手渡し、クリスタ・ソムラー、ロラン・ミニョノー氏らとも意見交換を行った。3 日までアルス・エレクトロニカを視察し、5 日からヴェネチア・ビエンナーレを視察した。展覧会視察の様子は、10 月に「メディア表現芸術特論」のなかで紹介した。

2. 学外での活動

○中京大学情報理工学部学術講演会コロキウムでの講演

H23 年 6 月 22 日に中京大学豊田キャンパスにおいて「音、空間と身体をつなぐもの」というテーマで講演をおこなった。

○展覧会「歌舞伎町アートサイト」への出品

H23年11月19日から12月3日まで、新宿、歌舞伎町シネシティ広場周辺で行われた公共空間での展示イベントに参加した。自作の<Sonic Interface> (1999)と<Container For Dreaming> (2011)を制作、出品した。また12月3日に関連イベントとして行われた「都市に介入するアート・建築：現場とその展望」というトークセッションに参加した。